

第1回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成30年5月28日(月)

2 場所 新見市役所3階 第4委員会室

3 出席状況 出席8名

部会長	森岡 繁信	出席	副部会長	今田 一成	出席
委員	森田 寿	出席	委員	鈴江 恵子	出席
委員	富部 透	出席	委員	小川 環	出席
委員	多賀 紀征	出席	委員	仲田 紗らさ	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 傍聴者

1名

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

部会長挨拶

3 協議

今回は、研究テーマの方向性を検討していくため、各委員から順次発言してもらいテーマを絞っていくこととする。

- ・学校教育では、教育委員会制度が変わったというが、変化が伝わってこない。
- ・交流人口では、互いの地域を知ることが重要である。文化・産業で他の地域と国内交流することで、他地域の取り組みが参考となる。
- ・新見高等学校の再編の話がある。この状況で新見高校をそのまま存続させることは難しい。来年度から全国募集を始めるが、何か他との差別化が必要である。

- ・新しい観光では、市内に6基あるダムなど、今までと違った視点での観光資源の掘り起こしが必要であり、新しい観光の創出につなげることも必要である。
- ・新見市に子どもたちを残す教育が必要である。地域の自然を生かした教育が必要と考える。また、地域と連携した教育が大切である。
- ・新見には豊かな自然があり、子どもたちへ自然に触れる機会を創り、成長後、進学等で市外に送りだしてあげることが必要である。大人が子どもに新見のことをしっかり伝え、新見ならではの教育を行うことが大切である。
- ・新見市はソフトボールのイメージが強く、ピオーネ球場は、広く活用されているようである。反面、防災公園は、ピオーネ球場に比べ、利用のイメージがないように感じる。
また、女性の登用が少ないように感じる。女性が活躍できる職場づくりが大切である。
- ・交流人口を増やすには市内イベントの開催重複を避け、分散させる必要がある。
今後活用が見込まれるAIの導入については、今後生活面で導入が進むと思う。
文化財のPRが十分にできていない。また、大学生が、生活面で満足していないと聞く。ニーズを把握しインフラ整備が必要ではないか。
- ・観光面で魅力のあるPRを実施する必要がある。また、地域を愛する子どもを育てる必要がある。親世代が新見に愛着を持ち、郷土愛を育てる教育が必要である。
- ・スポーツ振興については、今までに提言がない。提言の方向で考えてみてはどうか。ソフトボールは全国大会の誘致などがあり、また、ピオーネ球場もある。また、げんき広場にいみも立派な施設である。
教育テーマや新しい観光（スポーツによる多様な交流）の掘り起こしというテーマもよい。
また、新たなIJUターンの補助金も創設されたが、地元に残ろうとする地元の後継者も大事にすべきである。新見市の知名度アップを図るため、新見出身で知名度のある方に協力をしてもらい新見市をPRすることも必要である。
2月には提言書が出せるようにしたい。